



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



京都中部総合医療センター看護専門学校
2022年度 卒業証書授与式

CONTENTS

- 院長挨拶①
- 赴任のご挨拶②
- 診療科紹介 肝臓内科②
- 赴任医師のご挨拶③

- 2年目を迎えて⑤
- 京都DMAT養成研修に
参加してきました⑥
- クリティカルケア認定看護師⑦
- 感染管理認定看護師⑧

- 京都中部総合医療センター
看護専門学校⑨
- 2022年度の卒業式を迎えて⑩
- 京都中部総合医療センターの
救急体制⑩

地域医療支援病院 臨床研修病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院（地域災害医療センター）
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096
<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2023.4

Vol.57

春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域の医療、介護や福祉等との連携を推進し、最終拠点病院であるとの認識に立って地域支援に努めます。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

～満開の桜に希望を込めて～

院長 たつみ てつや 辰巳 哲也

今年もまた桜の花が満開に咲き誇る春が訪れました。約3年間続いた新型コロナウイルス感染症も第8波がようやく収束し、穏やかな春を迎えようとしています。日常生活や社会活動も元に戻りつつあり、令和5年5月8日からは新型コロナウイルス感染症の感染症法上における位置づけが“新型インフルエンザ等感染症から第5類感染症へ”と変更されます。厚労省は医療提供体制について、限られた医療機関による特別な対応から幅広い医療機関による自律的な通常の対応を推進する旨の発表を行いました。応招義務の扱いについても見直され、特に軽症、中等症の患者を診察する外来医療機関数はこれまでの約4.2万から最大6.4万へ、入院受入医療機関数は同じく約3千から約8千へと拡大することを目標に、国及び都道府県がこれを推進する見解が示されています。入院調整については都道府県主導から原則、医療機関間による調整となります。また、診療報酬や患者さんへの公費支援が段階的に見直されることとなりました。高額な治療薬の費用は引き続き公費負担となりますが、外来医療費及び検査費用は患者負担となり、入院医療費についても高額療養費制度の自己負担限度額から最大2万円を減額する措置があるとはいえ、これまでと違い患者負担が発生する見込みとなっています。

いよいよ4月より令和5年の新年度が始まりました。今後、オミクロンと大きく病原性が異なる変異株が出現した場合には、ただちに必要な対応を講じるとはいえ、これまでの診療報酬上の特例や病床確保料なども見直され、感染動向が予想しづらいコロナ診療に備えながらの病院運営も引き続き困難が予想されます。収まる気配が見えないロシアによるウクライナ侵攻による急激な物価高、長引く円安の影響など、国民の生活とともに令和5年度の病院経営は極めて難しい局面が続くと予想されます。また「医師の働き方改革」も、いよいよ待ったなしの状況に迫ってきました。医師・看護師等医療従事者の人材確保と育成に全力をあげながら、新病棟建設に向かって病院の舵取りを行っていきたくと存じます。4月からは64人もの新しい仲間を迎えました。医師部門では病理診断科に京都府立医科大学で教授を務められた伊東恭子先生が赴任していただくこととなり、さらに高いレベルでの病理診断が可能となります。消化器内科、脳神経内科、産婦人科、放射線科が増員となり、循環器内科、呼吸器内科、小児科、消化器外科、小児外科、整形外科、眼科、歯科・口腔外科は一部メンバーが変わります。整形外科では以前当院で活躍していただいていた村上幸治先生が部長として帰ってきてくれます。新たに赴任していただく先生方のお力で、診療が一層充実することと期待しています。医師以外にも4月から勤務いただけるすべての職員の皆さまには心から歓迎するとともに、今後のご活躍を期待しています。

京都中部総合医療センターは地域医療支援病院、第二種感染症指定病院としての責任と自覚を持ち、With/Afterコロナ時代においても最適な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようどうか宜しくお願いいたします。世界人類の平和と地域の皆さまが元通りの安心した日々の生活を取り戻されることを願ってやみません。今年も皆さまの春がさわやかで心温かなものでありますようにお祈りしております。

赴任のご挨拶

病理診断科部長 伊東 恭子



本院には、2003年から非常勤でお世話になっておりましたが、この度、常勤病理医として務めさせていただくことになりました。可能な限り、正確かつ迅速な病理診断をめざして精度管理に努力してまいります。また、臨床各科の要望に応じまして、カンサーボード、生検・手術例のCPC、分子標的治療を前提としたがんゲノム診断にも柔軟に対応したいと考えております。常に院内におりますので、身近な病理医として、気軽にご相談いただければ幸甚に存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介 肝臓内科

肝臓内科部長 光吉 博則

京都中部総合医療センターに肝臓内科が開設されて7年が経ちました。診療体制は1名ですが、必要な治療を提供すべく日々努力しています。この「診療科紹介」では診療成績の一部を紹介させていただきます。

当科では原発性肝がんの治療に積極的に取り組んでいます。これまでに59名（肝細胞がん52名、胆管細胞がん7名）の患者さんに対して、肝臓の機能や全身状態を考慮しながら、肝がん診療ガイドラインに沿って様々な治療法を選択して来ました（図1）。さらに、肝がんの早期発見を目指して、年間延べ約600名の患者さんに腹部超音波検査でスクリーニングを行っています。異常が見つければCT検査やMRI検査を追加します。これらの画像検査と腫瘍マーカー検査から肝がんの診断を行っています。近年は肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病に関連する肝がんが増えています。該当する方は自覚症状がなくても定期的な検査をお勧めします。

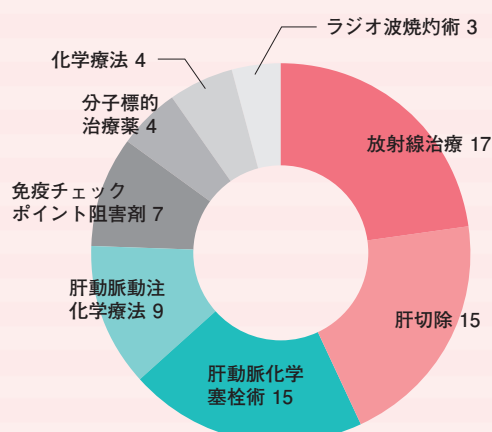


図1 原発性肝がんの治療選択（重複あり）

B型肝炎やC型肝炎の治療も積極的に行っています。肝炎ウイルスは長期間の持続感染を経て肝硬変や肝がんの原因になります。過去にはインターフェロン注射が行われていましたが、副作用の影響で高齢者では治療が難しく、効果も十分ではありませんでした。しかし、最近ではC型肝炎の治療として副作用が少なく効果の高い飲み薬が使われており、高齢者を含む多くの患者さんが安心して治療を受けられるようになりました。当科では104名のC型肝炎患者さんに治療を行い（図2）、103名の方が治癒しました。B型肝炎についても31名の患者さんに治療を行っています。

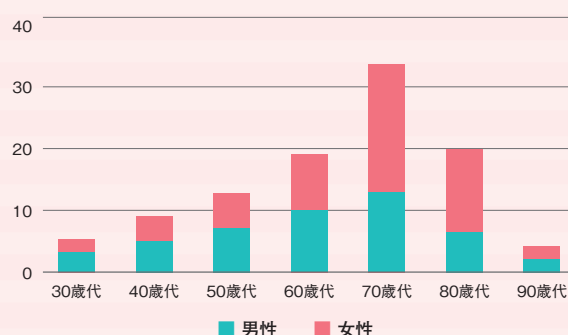


図2 C型肝炎の治療者数

毎年多くの肝機能異常の患者さんが受診されます。この中には自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎などが含まれており、放置すれば肝硬変にいたる恐れもあります。これらの疾患は肝生検で診断を確定してから治療を行っています。肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれるように、自覚症状がほとんどありません。血液検査で肝機能異常が見つければ、放置せず早めに専門医へご相談いただくようお願いいたします。

赴任医師のご挨拶

消化器内科

部長 小^お木^ぎ曾^そ 聖^{きよし} (平成19年卒)

大津市民病院、京都府立医科大学附属病院、JR大阪鉄道病院での勤務を経て、本年4月より当院消化器内科に赴任いたします。消化器内科一般に加え、主に消化管の内視鏡治療に関わってまいりました。

至らぬ点多々あると思いますが、地域の患者さんの為に一生懸命に働きたいと思ひます。何卒よろしくお願い申し上げます。



医員 佐^さ井^い 泰^{やす}幸^{ゆき} (令和3年卒)

当院での2年間の初期研修を修了し、引き続き勤務させていただきましたことになりました。当院の先生やスタッフの方々の温かい雰囲気と医療に真摯に向き合う姿に惹かれ、当院で研修しました。私の憧れた先生方のような素敵な医師を目指し、2年間温かく見守ってくださったスタッフの方々と地域の患者さんに恩返しできるように精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科

医員 石^{いし}崎^{ざき} 直^{なお}子^こ (平成30年卒)

兵庫医科大学病院にて初期研修を、その後は京都府立医科大学附属病院、西陣病院、淡海医療センターに勤務しておりました。歩いた時の息切れや疲れ易さ、咳が止まらないなど、呼吸器疾患は日常生活に根強く関わっているかと思ひます。そういった生活の上での困った症状に対して気軽に相談いただければ幸いです。「地域の皆さまの日常生活を守る」をモットーに診療に努めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



脳神経内科

医員 辻^{つじ} 健^{けん}吾^ご (令和2年卒)

これまで京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院で経験を積み、本年度より当院脳神経内科で勤務させていただきましたことになりました。しびれや頭痛などの症状に悩む南丹医療圏の皆様へ寄り添い、体の健康を守れるよう精一杯従事したいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科

医員 北^{きた}村^{むら} 道^{みち}敬^{たか} (令和3年卒)

当院での2年間の初期研修期間を終え、4月から引き続き勤務させていただくことになりました。かねてより循環動態に興味を持っており、循環器内科と麻酔科とで進路を迷った時期がありましたが、辰巳院長をはじめ循環器内科の先生方への憧れもあり、茨の道を歩むことを決心いたしました。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



医員 吉^{よし}田^だ 詩^し織^{おり} (令和3年卒)

近江八幡市立総合医療センター、京都府立医科大学附属病院での初期研修を経て今年で医師3年目になります。聴くこと、話すことが好きです。対話を重視した丁寧な診療を心がけます。至らぬ点多々あると思いますが、南丹医療圏の一員として精一杯精進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器外科

医員 足^あ立^{だち} 雄^{ゆう}城^き (平成30年卒)

昨年度は京都府立医科大学附属病院で勤務し、今年度から京都中部総合医療センターで勤務することとなりました。

一昨年度まで、2年間当院で勤務していただきましたので2度目の赴任となります。成長した姿を見せられるよう、また、南丹医療圏に貢献できるよう日々精進して参りたいと思ひます。まだまだ至らぬ事も多々あるかと存じますが、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



産婦人科

医員 渡^{わた}邊^{なべ} 亜^あ矢^や (平成29年卒)

この度京都府立医科大学附属北部医療センターから赴任しました。2017年に自治医科大学を卒業し、医師7年目になります。昨年産婦人科専門医を取得することができました。自治医科大学卒業ということもあり、地域に密着した医療が行えるよう精進いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



整形外科

部長 ^{むらかみ こうじ} 村上 幸治 (平成16年卒)

京都中部総合医療センターには2013年4月から2018年6月まで勤務しておりました。2018年7月より亀岡市立病院で主に膝関節外科、人工関節（膝・股関節）を中心に診療を行い、この度ご縁があって再び当院で勤務することになりました。

当院では2022年に人工膝関節手術における支援ロボットが導入されており、より正確で細やかな手術が行えることに期待しています。4月から気持ち新たに日々精進していく所存ですので、よろしくお願いいたします。



小児科

医師 ^{そとぞの あきひろ} 外園 晃弘 (平成29年卒)

これまで京都第二赤十字病院、舞鶴医療センター、京都府立医科大学附属病院と勤務をしてきました。各地の病院で働きながら、その病院ごとに求められる医療が変わることを実感しており、京都中部総合医療センターは南丹医療圏の中核病院であるという自覚を持って診療に携わりたいと思います。子供たちとそのご両親のどちらからも信頼していただけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



小児外科

医長 ^{たけもと まさかず} 竹本 正和 (平成25年卒)

小児外科では、消化器外科領域、呼吸器外科領域、泌尿生殖器外科領域、頭頸部外科領域など多岐に渡る疾患に対応します。大きな責任感を伴うお子様の手術ではありますが、安全な小児医療を提供できることが、安心な子育てに繋がると考えており、地域のお子様たち、ご家族様の笑顔と健康のために日々精進していきますので、何卒よろしくお願いいたします。



眼科

医員 ^{ふくい あゆみ} 福井 歩美 (平成28年卒)

網膜・硝子体疾患を中心に、眼科疾患を全般的に診療させていただきます。患者さんに寄り添ったわかりやすい説明、丁寧な診察を心がけています。目に関することで心配事がありましたら、どんな些細なことでも構いませんのでお気軽にご相談ください。皆さま何卒よろしくお願いいたします。



歯科・口腔外科

医員 ^{やすい まさる} 安井 槇瑠 (令和3年卒)

今年度より歯科口腔外科に赴任いたします。京都府立医科大学附属病院で初期研修修了後、三菱京都病院、京都府立医科大学附属病院で勤務しておりました。地域の皆様のお役に立てるように精一杯努めさせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



医員 ^{ひらやま けい} 平山 圭 (平成30年卒)

近江八幡市立総合医療センター、京都府立医科大学附属病院での初期研修を修了し、小児科医として1年間京都第一赤十字病院で勤務後、一昨年度は京都中部総合医療センターでお世話になりました。1年での異動となり昨年度は京都府立医科大学で勤務しておりました。

地域のお子さんたちの健康と笑顔を守るよう、一生懸命頑張りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。



医員 ^{おばた さくや} 小畑 咲耶 (令和2年卒)

京都市立病院で初期研修を修了し、小児科専攻医として1年間勤務しました。京都中部総合医療センターの一員として地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線科

医員 ^{やすむら としのり} 安村 俊宣 (平成29年卒)

京都府立医科大学卒業後は、京都岡本記念病院、京都府立医科大学附属病院、済生会滋賀県病院、京都第二赤十字病院で勤務しておりました。まだまだ未熟者ですが、南丹医療圏の中核を担う当院で少しでも貢献できるよう精一杯努力する所存です。至らぬ点が多くご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



2年目を迎えて

研修医

よしだ むねひろ
吉田 宗弘

入職して1年が経ちました。職員の皆様にはご迷惑をおかけすることも多かったと思いますが、先輩の医療スタッフの皆様にご指導、ご鞭撻いただき、充実した1年間を過ごすことができました。ありがとうございます。まだまだ至らないところばかりですが、2年目は1年目に教えていただいたことを糧に、少しでも成長した姿をお見せできるように精進いたします。今年度もよろしくお願いいたします。



よしむら ゆうき
吉村 悠希

期待と不安を抱えながら働き始めて、あっという間に1年が経ちました。初めは分からないことだらけで、不甲斐ない自分に落ち込む毎日でしたが、この1年、先生方はじめ皆様に助けられながら、少しずつできることが増えてきたように思います。今でもまだまだ未熟で、至らない点多々ありますが、患者さんに寄り添った医師になれるよう精一杯精進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護師

いわもと りな
岩本 里菜

おおつか りのか
大塚 梨乃香

のべ かひろ
野邊 果潤

私たちの看護学生時代はコロナ禍の影響で臨地実習が出来なかったり、見学がメインだったり直接患者さんと触れ合う機会が少なかったため病棟で働き始めた当初は、知識面以外に患者さんにどう触れたらいいのかわからず、清潔ケアをするのも不安でした。しかし、先輩方の患者さんとの関わり方を学び、少しずつ実践に移すことができました。人の命に関わる仕事のため今でも不安はあり、先輩方に指導をしていただきながらですが、目の前の患者さんに合った関わりや退院後の生活、その方の家族のことを踏まえた上での看護を心掛けられるようになってきたと感じます。これからは患者さんの個別性や退院後の生活を視野に入れた看護を自ら発信できるように頑張りたいです。



薬剤師

よねやま まほ
米山 真穂

2月に薬学生向けの病院説明会で薬学生とお話をする機会がありました。病院薬剤師という職に興味を持つ薬学生達を見て、学生時代の就職活動を思い返しました。この1年を振り返ると、思うようにいかないもどかしさや臨床の難しさに揉まれ、あの頃思い浮かべていた薬剤師にはまだまだ程遠いと感じます。それでも、1人の薬剤師として患者さんや多職種の方から頼りにしていただけたことを光栄に思いました。2年目ではより一層頼っていただけるようなジェネラリストになり、学生時代の私に胸を張ることができるよう精進して参ります。



診療放射線技師

よこしま けいご
横島 佳吾

入職してから1年が経ちました。まだ不安に感じることもあります。先輩方の丁寧な指導のおかげでできることが増えてきました。先輩方の患者さんとのコミュニケーションの取り方を参考にし、今よりも患者さんに寄り添うことができ不安を軽減できるようになりたいと思います。また日々勉強し知識を蓄えより良い画像が撮れるようにしたいと思います。これからも地域医療に貢献できる技師になれるよう努力していきますのでよろしくお願いいたします。



臨床検査技師

たかやま みな
高山 実那

この1年間、あっという間に過ぎたように感じます。入職してすぐの頃は、覚えることも多く、毎日の仕事をこなすので精一杯でした。しかし先輩方のご指導のおかげで、多くのことを学び、できることが増えて臨床検査技師として成長することができました。そして、医療従事者としての責任をより感じるようになりました。まだまだ知識技術共に未熟ですので、日々の経験を大切にして、これからも努力していこうと思います。



京都DMAT養成研修に参加してきました

消化器内科部長 すずき けんたろう
鈴木 建太郎

2022年12月17日、18日に京都第一赤十字病院で京都DMAT養成研修が開催されました。当院からは医師1名、看護師2名、業務調整員1名の計4名が受講者として参加しました。DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは、医師と看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的訓練を受けた医療チームです。当院も災害拠点病院としての役割を担うべくこのようなDMAT隊員の育成に励んでいます。

養成研修当日までにDMATの意義、基本コンセプト、災害現場における消防・警察・自衛隊活動などについてWebで事前学習を行い、2日間の研修では座学、トリアージタグの記入やトランシーバーの使い方の実習、病院被災や列車脱線事故を想定した机上訓練、救護所運営演習などを行いました。研修を通じて職種に関わらず参加者それぞれが積極的に発言しており、非常に有意義なものでした。

救護所運営の演習では傷病者120名の列車事故を想定した事例でした。救護所の設営に戸惑う中、傷病者が救護所内に次々と搬送され、医師・看護師はトリアージを行い傷病者の状態を把握し、医療機関への搬送に耐えられるよう適切な治療介入を行います。調整員は現場での情報管理、本部との情報伝達を行い、リーダー医師は患者の状態を把握し、搬送の優先順位を決定し本部へ伝達する。これをひたすら繰り返しながら、なんとかリーダー医師のもと演習を乗り切ることができました。もちろん、多くの反省点が見つかりましたが、振り返りの中で全体共有を行い今後の課題を確認することができました。修了式後はまずは何より安堵感、そして凄まじい疲労感に襲われましたが、充実した2日間でした。

DMATの基本コンセプトはCSCATTT (Command&Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transport) です。このうち、CSCAの部分は、指揮命令・統制、安全、正確な情報伝達、評価判断を意味しており、災害に関わらず日常診療でも非常に重要な概念です。

当たり前のことでも日々おろそかになりがちで、本当に基本的なことが実はとても重要であるということに改めて気がつきました。

災害は待ち望むものではなく、できれば起こって欲しくありませんが、いつ起こるかわかりません。万が一のために出来るだけ備えておく必要があります。訓練を通じて日頃からの意識・準備の必要性を強く感じました。あらためて振り返るととにかく疲れた！でも参加できて良かった！という思いです。これが単なる記念参加・経験として無駄に終わることないように、訓練を継続しながら貢献できるように努力していきたいと思います。最後になりましたがこのような機会を与えていただいた関係各位に厚く感謝申し上げます。



クリティカルケア認定看護師

救急・放射線科 副看護師長 ^{のむら のりこ} 野村 典子

クリティカルケア認定看護師について

クリティカルケアとは、生命の危機的状態（クリティカル期）にある急性かつ重症患者に対して行うケアの総称になります。もともと救急・集中看護領域は、生命の危機状態にある患者の病態変化を予測し、重篤化の回避を行う集中ケア認定看護師と救急現場において迅速で的確なトリアージを行い病態に応じて適切なケアを行う救急看護認定看護師から構成されていました。しかし、2019年度、認定看護師制度が再構築され両者を統合、現在のクリティカルケア認定看護師となりました。活動方針は、あらゆる場で生命の危機的状況にある患者への初期対応、異常の早期発見、重篤化の回避、早期回復支援になります。また、認定看護師制度が再構築された理由に、2025年問題が大きく関与しています。医療だけでなく介護のニーズが高まることを見据えて、あらゆる場でのニーズに応えられる認定看護師を養成するため、2015年度から特定行為研修が開始され、特定行為ができる認定看護師の養成が始まりました。

クリティカルケア認定看護師とは、特定看護師と認定看護師の両方を担っています。

■これまでの経歴を教えてください

京都第一赤十字病院救命救急センターで看護師としての道を歩み始め、その後は、大学病院や独立型救命センターのICU/ER勤務を経て、12年前に当院に着任しました。京都中部総合医療センターでは病棟や外来勤務後、現在の部署に配属されました。

2021年12月クリティカルケア認定看護師教育課程を修了。2022年12月、認定審査に合格しクリティカルケア認定看護師となりました。



■資格取得を目指したきっかけを教えてください

認定看護師になることは、看護師になった頃から抱いていた夢の一つでした。

2020年夏、新型コロナウイルスによる2週間の病院閉鎖は、私にとって未知の体験でした。閉鎖中はもちろんのこと再開後も、地域住民の方々から多くのご意見を頂戴しました。中には、とても厳しい意見もあり、医療者としての自分と一人の人間としての私が葛藤する日々でした。そのことが当院の役割や救急体制、自身の救急看護師像について改めて考え直すきっかけとなりました。今、社会情勢は高齢化に拍車がかかり、2025年に向け医療ニーズにも変化が生じています。高度医療の最先端を必要とされる救急医療の現場も変わりつつあります。地域完結型の医療体制の構築が求められている今、私自身も次のステップを踏みたいと思いクリティカルケア認定看護師の道を目指しました。

■大変だったことはありますか

予習・復習・課題・科目試験が次から次へと襲いかかり、1日が24時間では全く時間が足らず、常に時間と課題に追われる日々でした。その中でも臨地実習での記録が一番しんどかったです。本当に辛すぎて泣きながらやったのを覚えています。寝る間も惜しんで提出した記録が真っ赤に修正されて返却された時は、本当に心が折れました。常に己との戦いでした。

■ これからの活動について教えてください

今は、認定学校で得た知識や技術をどのように還元するか。そのためにはどう取り組んでいくかを考えている段階です。高度な技術と水準の高い医療と看護を必要とする救急医療の現場から在宅で起こり得る緊急時の対応も含み、この地域の医療実状に合った看護の实践ができるように多職種連携を大切に、病院ならびに地域へ貢献できるように尽力いたします。



感染管理認定看護師

感染病棟 副看護師長 しば た なみ 柴田 奈美

■ 資格取得を目指したきっかけを教えてください

新生児室に長く勤務する中で、常に手指衛生5つのタイミングを遵守し、手指衛生を行っていました。感染対策の基本である手指衛生をおろそかにすることで、感染は伝播していきます。医療者の手指が、感染の媒介になってはいけなくと強く思っていました。看護部の感染リンクナース委員会での活動は、看護師に向けての取り組みにとどまっており、職員全員が、手指衛生を遵守することができる活動が出来ればと考え、感染管理認定看護師を目指すことを決めました。



日本看護協会の認定看護師教育課程（A課程教育機関）神奈川県立保健福祉大学実践教育センター・感染管理認定看護師教育課程での8ヶ月の研修を修了しました。教育センターは横浜市にあり、病院勤務から離れ、8ヶ月間感染管理の勉強・実習に没頭することができました。2022年12月には、日本看護協会認定看護師審査に合格し感染管理認定看護師（CNIC）として活動を始めました。

■ これからの活動について教えてください

感染管理認定看護師とは、感染制御のために必要な高度な知識や技術を有する看護師です。役割として「実践」「指導」「相談」があり、組織の中で感染管理システムを構築し、患者・家族・職員を感染から守ることを目標としています。具体的な活動内容をご紹介します。

- ・医療関連感染予防と減少のために、尿道留置カテーテル、中心静脈カテーテルの使用状況や感染状況の確認を行い（サーベイランス）感染対策を現場と一緒に考え実践していきます。
- ・院内感染対策チーム（ICT）の一員とし、院内ラウンドを行い、感染対策の実際を確認し、評価後フィードバック指導を行います。
- ・職業感染管理として、ワクチン接種の促進、針刺し切創・血液粘液曝露感染対策において、安全器材の配置や導入を行います。感染症発生時には、接触者調査と対応を行います。
- ・患者さんやご家族、地域住民の方々、職員からの感染対策についての相談対応を行います。
- ・感染対策の視点から、空調設備・水設備・清掃・給食・リネンなどの病院環境のファシリティマネジメントをし、患者さんと職員を含む医療施設内の人々を、感染から守る施設・環境の整備を行います。



5月からは、新型コロナウイルス感染症の分類が変更となりますが、ウイルスは変わるわけではありません。感染対策の基本である手指衛生を行い、感染予防を行っていきましょう。感染管理認定看護師として組織横断的に活動し、患者、家族、職員、地域住民を感染から守るため、感染管理・感染予防対策を行っていきと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

「1年間の学びを終えて」

1年生 すだ ちさと 須田 千聖

入学してから1年が経ちました。初めは実技試験や実習など、今まで経験した事のないことばかりで不安も多くありましたが、仲間と切磋琢磨し最後までやり切ることが出来たのではないかと思います。援助に対する難しさや課題、技術力、医療知識の必要性など、様々な事を学び考えた1年でした。

この経験を活かし2年生では、より患者さんに必要な看護とは何かを考え追求し、自分ができる援助の幅を広げるために実技練習や日々の学習を大切にしていきたいです。

「3年生に向けて」

2年生 こすが かほ 小菅 佳穂

2年生の実習を終えて、患者さんにとって必要な看護は何かコミュニケーションや観察を通して考え、学ぶことができました。また、患者さんとお話を通して退院後の自己管理法についてどのような工夫をすれば普段の生活に取り入れていくことができるのか、患者さんに合った方法を考えることの大切さを学びました。

3年生の実習でも、日々のコミュニケーションや観察を大切に、相手の立場に立って考えた援助をしていきたいです。

「3年間の学びと感謝」

3年生 ながわ しょうき 中川 翔貴

3年間の学生生活・国家試験を終え、いよいよ憧れであった看護師としての道が始まろうとしています。新型コロナウイルス感染症の影響により学校に登校して授業を受けることができない日々が続き、また臨地実習にも行くことができない時もありましたが、患者さんやスタッフの方、先生方から看護に必要な知識や技術だけでなく相手を思いやる心など数えきれない多くのことを学ばせていただきました。今までたくさんの方々に支えていただき、成長させていただけたことに感謝しています。

看護師としての責任と自覚を持ち、3年間での学びを活かしながら、患者さんの思いに寄り添った看護を行えるようこれからも学び続けたいと思います。



※学年は令和4年度のものとなります

2022年度の卒業式を迎えて

京都中部総合医療センター看護専門学校 学校長 おぐら 小倉 たく 卓

厳しい冬の寒さも少し和らぎ、生命の息吹が感じられる季節になりました。2023年3月2日、本日晴れて京都中部総合医療センター看護専門学校を卒業される学生の皆様、本当におめでとうございます。今回28名の卒業生を送り出せることを嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない2019年から2021年度の卒業式は拡大防止の観点から、卒業生と限定して呼び出した御来賓の方だけの出席と、規模を縮小して行ってきました。卒業生の門出を祝うことを楽しみにしておられた保護者、ご家族、ご関係者の方々にご無理をしいたことに申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、本式典では保護者各一名と限られた形でのご出席ではありますが学校に呼びできましたこと、皆様と御一緒に卒業生の門出を祝うことができましたことを教職員一同喜んでおります。御出席いただいた保護者の皆様方、卒業生の長い勉学の道のりを、心身ともに支えられ、今日の良き日を迎えられたことに敬意を表し、心からお祝い申し上げます。

さて、卒業される皆様は入学当初から厳しい感染対策に加えて対面でなくオンラインでの授業を余儀なくされたことや臨地実習も予定通り進まないことなど大変な毎日をご過ごされたことでしょう。また4月からは看護師として医療現場の第一線を担うことに不安な気持ちで一杯だとは思いますが心配いりません。医師、看護師、医療従事者ならびに病院事務職員一同が皆様を優しくお迎えして下さいますので焦らず少しずつ実践力を身につけて下さい。今後は、チーム医療の中心となり患者さんに寄り添って心優しい看護師として活躍されますこと教職員一同切に願っています。

地域の皆様に愛される学校づくりをスローガンの一つとして地域住民の方々と学生との交流会や小学生、中学生の職業体験を積極的に取り入れるとともに京都府内の高校に出向いて本校の魅力について度々説明してきました。ここ3年は定員を満たす入学生をお迎えすることができ安堵しております。まだ学校運営上いくつかの解決すべき課題がありますが、京都中部総合医療センターと協力しながら課題克服に向けて一歩ずつではありますがスピード感を持って進めていきますので、看護学校に対してこれまでと同様にご高配ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

病院職員の皆様には卒業生の成長を温かいまなざしで見つめて育んでいただきますようよろしくお願いいたします。



京都中部総合医療センターの救急体制

当院では、24時間365日救急の患者さんを受け入れられるよう体制を整備しております。京都府からは「救急告示病院」に指定され、二次救急医療機関として救急隊からの要請にも日々対応しております。

南丹医療圏には三次救急に指定されている病院がありませんが、当院では集中治療室を整備しており、第二病棟屋上のヘリポートではドクターヘリの受け入れも行っております。冠動脈カテーテル治療や、急性腹症に対する緊急消化管内視鏡処置・緊急手術などには24時間対応できる高次救急機能を有し、二・五次救急とも言うべき役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられることが決まりましたが、5類になってからも、リスクの高い患者さんにとっては怖い感染症であることには変わりありません。病院にも新たな対応が求められることとなりますが、基本的な感染症対策を怠ることなく、地域における拠点病院として引き続き救急医療の充実に尽力していきます。

救急外来のお問い合わせ

0771-42-2510 (代)

24時間 365日対応

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは…

普段の健康状態を把握してしてくれる
もっとも身近な「主治医」のことです。
具合が悪くなったり、困ったときにはいちばん
に受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



かかりつけ医についてのご相談は

総合受付①窓口

- 地域医療連携室／電話0771-42-5061(直通)
- 受付時間／平日8:30～17:15

看護職員募集

一緒に働く仲間、大募集
新しいこと、極めること、
仲間とともに。

看護師寮利用できます。(正職員)
月額4,000円(税込)



地域包括ケア病棟にて

〒629-0197
京都府南丹市八木町上野25番地
京都中部総合医療センター 総務課人事係
TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



編集後記

きれいな花々が咲き、花見がてらに散歩をするなど、身体を動かすのにより季節になりました。運動をすると身体が疲れてしまうと思いきや、無理のない範囲で身体を動かす方が疲労回復に繋がり、心も穏やかになるといわれています。

新年度が始まり、慣れないことでストレスが溜まりやすい季節でもありますので、軽い運動を行うなど、ほどよい息抜きをしてお過ごしください。

広報委員会 H.N.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

